

令和 八 年度

四天王寺東高等学校入学試験問題

国 語

注意 答はすべて解答用紙に書きなさい。

一次の文章は、岩田健太郎氏の講演原稿の一節です。岩田氏は、立命館アジア太平洋大学学長の出口治明氏の『タテ、ヨコ、算数』が大事」という考えに共感して、この講演を行っています。読んで後の問いに答えなさい。

2009年に、メキシコで奇妙なインフルエンザが流行しました。多くの人は恐怖しました。死亡率が高かったからです。

当初、このインフルエンザの死亡率は6%と言われていました。クラスで2人とか3人くらいが死んじゃう確率ってことですね。これはやばいじゃん。

というわけで、このメキシコの新型インフルエンザウイルスが日本に入ってきたらどうしよう。当時の厚生労働省は恐怖しました。慌ててあれやこれやの対策を立てようとしたのです。日本にこのウイルスが入ってこないように空港や港でしっかりとブロックしようと思いました。これを俗に「水際作戦」といいます。日本は **Aコツキヨウ** が海岸線ですから「水際」でブロックしようということですよ。

で、この新型インフルはあつという間にアメリカ合衆国、カナダと北米大陸で感染を広げ、世界中で流行し、そしてついには日本に入ってきました。水際作戦、うまくいかなかったんですね。

メキシコで死亡率6%？ やばいじゃん、と思われていたウイルスが、日本にやってくる実はそのなかに死亡率が高くない。ほとんどの人は自然に元気になってしまします。

こういう現象を観察すると、しばしば人は「ウイルスの遺伝子が突然変異をして弱毒化したんじゃない？」と考えがちです。

でも、そういう事実はありません。ウイルスが変わったんじゃない。 **①** が変わったのです。

メキシコで「謎の肺炎」が流行し、それが世界で初めての新しいインフルエンザウイルスによるものだ、と分かる。死亡率が高い。こういう話を聞くととき、ぼくらプロは必ず「分母はなんなのかな」って考えます。分数の横棒の、下にあるのが分母、上にあるのが分子ですよ。

人は **P** ではそうそう間違えませんか。ここでの **Q** は「新型インフルで死亡した人」です。でも、 **R** の設定はしばしばしくじります。

メキシコで「謎の肺炎」が流行して戦慄せんりつしたとき、当然分母は「謎の肺炎」患者だったのでしよう。おそらくは入院を必要とするような重症患者です。で、症状の軽い元気な患者さんは「新型インフル」を疑われず、PCR検査だつてされなかったのでしょうか。だって、メキシコでの問題は「謎の肺炎」だったのですから。

というわけで、「真の分母」……新型インフル感染者の多くはメキシコでは見逃されていた可能性が高い。積極的にアメリカやカナダで調べるようになり、新型インフルは死亡率をどんどん下げていきます。ウイルスが変わったんじゃない。我々の数の数え方が変わり、分母がどんどん大きくなり、そして結果として死亡「率」が低くなっていったんです。

と、このように「分数」というものはどういふもののかな、とちよつと考えてみるだけで世界の見え方が随分変わってきます。

さて、同じことが今回の新型コロナウイルス感染症でも起きています。

**a** ところが、その後発生した「第二波」においては、PCRのキャパシティーが高まったので、前回よりもたくさんを検査をして、たくさん感染者が見つかりました。

**b** そうすると、「分母」がでかくなりますから、「死亡率」が下がってきます。

**c** 日本で「第一波」が起きたときは、日本にはPCR検査をするキャパがなかったために、たくさんの方が検査を受けられませんでした。

**d** よって、実際の感染者よりもずっと少ない方だけが「感染者」とカウントされました。

「コロナウイルス、弱毒化したんじゃない？」と例によって「同じ話」が繰り返されるのですが、これも分数のことが分かっていたら、全然、びつくりすることではないんです。

さて、「タテ、ヨコ、算数」でした。タテというのは時間、あるいは歴史のことです。歴史の勉強も大事なんです。勉強が大事、なんて **B** **メンドウ** くださいことばかり言っただけで、実際そうなんだからしょうがない。

長い長い感染症の歴史の中で、たくさん感染症が流行してきました。ウイルス感染症はその一つ。

ウイルスには遺伝子が入っています、この遺伝子はしばしばチェンジします。突然変異というやつです。ところが、遺伝子の変化が起きたとしても、ウイルスのキャラが変わることってめったにないんです。まあ、数十年に1回くらい、インフルエンザウイルスの「キャラ」が激変して大流行することはありますが、逆に言えば数多いウイルス感染症が長い感染症の歴史の中で「キャラ変」することはめったにありません。これが、感染症の歴史、「タテ」ということになります。

こういう歴史の知識、「タテ」の知識を持っていれば、メキシコで死亡率が高いと言われた新型インフルが日本で死亡率が低い場合も、新型コロナで第一波や第二波がやってきても、そうそう焦る必要はありません。ウイルスが強毒化するんじゃないか、という陰謀論に②おののくことも、ウイルスは弱毒化してるんじゃないか、という楽観論に③与する必要ありません。「ああ、またいつもの話で、数の数え方だけ間違ってる可能性が高いよなあ」と推察できるわけです。

「タテ」、歴史の勉強というのは、重要な出来事や年号を暗記するというのではなくて、歴史を通じて「④」できそうな共通法則みたいなものを掘り起こしてみる学びのことです。これをやっている場合と、やっていない場合では、新しい危機に対する対応力が段違いになります。未来を見通し、切り開くときに、過去の勉強ってCアンガイ役に立つんです。【W】  
「タテ」の勉強が時間の勉強、歴史の勉強であるのに対して、「ヨコ」の勉強は、空間の勉強です。例えば、海外ではどうなっているか、といった「他者との比較」です。

「日本では新型コロナ対策がうまくいっている。日本人は感染しにくい。重症化もしにくい。ジャパンミラクルだ」なんて主張をする大人たちがいます。

本当かな、と「ヨコ」をキョロキョロ見てみます。そうすると、ニュージーランドや台湾ではほとんど患者が発生していないことが分かります。ベトナムやアイスランドでは死亡例がほとんど出ていないことも分かります。一旦流行が広がった中国や韓国がしつかり感染数を抑え込んでいることも分かります。たしかに日本では、ほとんど無策、無防備のアメリカ合衆国やブラジルよりはましなのですが、最強でもミラクルでもなくて、第二波の感染数はかなり多いことが分かります。【X】

「第二波で感染者が増えても、若い人たちの流行が中心で、重症例や死亡例は出ていない。あれは検査をたくさんやってるだけ。心配ご無用」こんなことを主張する大人たちもいます。

でも、これも間違い。「ヨコ」のアメリカ合衆国を見ると、たしかに感染者が増えても死亡者は増えていないように見えます。事実、トランプ大統領は「死亡者は増えていないんだ」と自らの政策をDセイトウ化する主張をしていました。が、新型コロナウイルス感染はとても長い病気でして、発症してから死に至るまでがとても長いのが特徴なのです。これは現場、病院で実際に患者さんを見ていないとなかなか分からない。それに、「若い人」の流行を放っておくと、いつしかそれは「高齢者」など重症リスクの高い方の流行へとシフトしていきます。アメリカ合衆国では感染数の増加から1カ月程度遅れて重症者や死亡者が激増しました。そういう「ヨ

「コ」の事情を理解しておけば、日本でも早晚、同様のことが起きるだろうな、という見通しが立ちます。そして事実、「第二波」の初期に「若い人だけ」「重症化はしてない」と主張していた大人たちは、数週間後に発生した高齢者の事例、重症例、そして死亡例の増加に口をつぐむようになりました。⑤ 「タテ、ヨコ、算数」ができない大人たち。

「タテ」の勉強が歴史の勉強ならば、「ヨコ」の勉強は地理の勉強かもしれません。他の国ではどうなってるんだろう、という興味 **E** **カンシン**、好奇心はとても大事です。そういう比較をすることで、自分たちが住んでいる日本もよりよく理解できます。比較しないで日本だけ見ていても、日本のことなんてさっぱり分からないんです。そういう「日本しか見てない」大人もとっても多いのです。残念なことに。

\*ポストコロナの時代はどんな時代でしょう。いろんなシナリオを想定できます。バラ色のシナリオ、ろくでもないシナリオ。【 Y 】

どんなシナリオがやってきても、みなさん一人一人が時代を切り開き、世界を変えられるかという点、そんなに甘い話ではないと悲観的な\*リアリストのぼくは思います（間違ってるかもしれませんが）。ただ、世界を変える力があなたになかったとしても、世界の見方を変えることは比較的簡単にできます。それが、「タテ、ヨコ、算数」です。

世界の見方を変えることができれば、より正しく世界を認識できれば、あなたがよりよく生き抜く可能性はちよつとは高まるんじゃないかと思っています。それが、どんなにクソろくでもない世界だったとしても。【 Z 】

（内田樹 編『ポストコロナ期を生きるきみたちへ』より）

《語句注》

\*ポストコロナの時代：…コロナ騒動が終わった後の時代。

\*リアリスト：…現実主義者。

問 1 〓線 A ～ E のカタカナを漢字に直しなさい。

問 2 空欄 ① に当てはまる言葉として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本における死亡率
- イ 「謎の肺炎」の流行の仕方
- ウ 死亡率の考え方
- エ 人間の観察の仕方

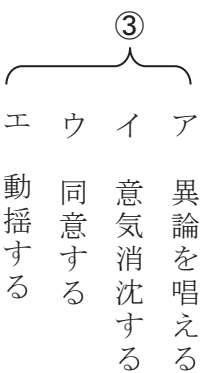
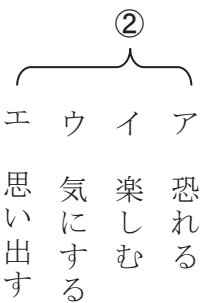
問 3 P・Q・Rに入る言葉の組み合わせとして適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア P || 分子 Q || 分子 R || 分子  
イ P || 分子 Q || 分子 R || 分子  
ウ P || 分母 Q || 分母 R || 分子  
エ P || 分母 Q || 分子 R || 分子

問 4 枠内の a と d の文について、意味が通るように並べかえるならばどのような順がよいですか。適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア b a d c                   イ c d a b  
ウ c a d b                   エ d a b c

問 5 線②「おののく」・③「与する」の各語句の意味として適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。



問 6 空欄 ④に入る言葉として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 特殊化                   イ 合理化                   ウ 総合化                   エ 一般化

問 7 次の一文を本文中に入れるとすれば、【W】と【Z】の中のどこがよいですか。一つ選び、記号で答えなさい。

周囲を観察する、キョロキョロするのって大事です。

問 8 線⑤「タテ、ヨコ、算数」について、以下の問いに答えなさい。

(1) 「タテ、ヨコ」とは、何の比喻ですか。それぞれ本文中の漢字二字の言葉で答えなさい。

(2) 線⑤の勉強を筆者が重視しているのはなぜですか。二十字以内で説明しなさい。

問9 本文の内容と合致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 筆者はメキシコでの「謎の肺炎」への対応のまずさをとり上げて、日本が新型コロナの流行に対してどのように対処すべきかを提案している。

イ 筆者は日本の水際作戦を考えた大人たちの不適切な判断力をとり上げて、若者たちに歴史と地理と分数については入念に学ぶように説いている。

ウ 筆者は新型コロナ流行時の大人たちの考えた政策をとり上げて、よりよく生きていくための方法として視点を変えて世界を捉えてみることを提起している。

エ 筆者はアメリカ合衆国などでの感染症に対する無防備さをとり上げて、ポストコロナ時代に日本でもとるべき政策を若者たちが早く打ち出すように促している。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

箱の中を見つめながら、わたしは数秒ほど①途方に暮れていた。そこになにがあるのかとつきにはわからなかった。でも心のどこかでは気づいていたのだと思う。箱の中に詰まっている、その地獄に。

鳴き声が、また聞こえてきた。

声の主を探そうとして目をこらすと、今度はどうにか見えた。箱の中にはたぶん四匹の子猫がいた。たぶん、とつけたのは、はっきりわからなかったからだ。でも声が聞こえていた。ミーミーと叫んでいた。

まだ温かい塊を、やがて探り当てた。

一匹だけ、そうたった一匹だけ、生き残った子猫がいたの **A** **だ**。

〈「わたし」は異父弟の健一と共に、子猫を動物病院へ連れて行き、診察を受けた。子猫は片目が見えなかった。〉

診療が終わったあと、タオルにくるんだ子猫を抱いて、わたしたちは家に向かった。帰り道は両脇がずっと林で、森の中をさまよっているみたいだった。高い木々のせいで辺りは薄暗く、道路の端っこに積もった土は湿っていた。吹き抜けていく風がなんだかやけに涼しくて、わたしたちはたださえ暗い気持ちなのに、どんどん寂しくなっていた。健一君がいてよかった。ひとりだったら、耐えられずに駆

け出していただくろう。男の子っていいもんだな、と思った。こうしてそばにいく  
れるだけで、すごく安心できる。

「助かるといいね」

「うん」

健一君の言葉に肯く。うなず

「ほんと助かるといいね」

猫はもう鳴かなくなっていた。

青く澄んだひとつきりの目で、世界を、わたしたちを見つめていた。

すき焼きのお肉はとても食べられなかった。だけど、誕生日を楽しみにしている  
コウちゃんに事情を知られるわけにはいかなかったので、夕食係を健一君に任せる  
ことにした。さすが男の子だ。健一君は「頑張ってみるよ」と言っ、その役目を  
引き受けてくれた。

ありがとう、健一君。

心の中で、何度もお礼を言った。

ありがとう。

そうして健一君とコウちゃんがすき焼きをしているあいだに、わたしは死んでし  
まった子猫たちを庭にこっそり埋めた。兄弟だから、全部同じ穴に埋めることにし  
た。最後まで、死ぬ瞬間まで、いっしょにいたのだ。死んでからもいっしょにいた  
いだろう。新しいお墓の前で、わたしはぼんやりしたまましゃがんでいた。リビン  
グのほうから、健一君とコウちゃんのはしゃぐ声が時折聞こえてきた。健一君はそ  
の言葉通り、頑張ってくれているらしい。悲しいことがあったなんて、  
感じさせない声だった。

さあ、家に入ろう。お肉は食べられないけど、とにかく明るい顔と声でコウちゃ  
んの誕生日を祝ってあげよう。何度も何度も思ったものの、やっぱり駄目だっ  
た。足が動かない。立てない。ああ、なんだろう。心も動かない。どっしりと座っ  
たまま。あれほど鮮烈 **B** **だ**った悲しみさえも今は消え去っている。痛みも喜びも悲  
しみも苦しみもわからない。猫を捨てた奴に対する怒りもなかった。わたしはいつ  
までもいつまでもしゃがみ込んでいた。そうか、こうして **③** **心もしゃがみ込んでい**  
**るのかも** **しれない**。いつ、どうやって、立てばいいんだろう……立てるんだろう  
か……。

やがて健一君がやってきた。

「子猫、ミルクを飲んだよ」

「え、ほんとに」

「獣医さんが言った通り、スポイトで口に入れてやったら飲み込んだ。けっこう飲

むんだな。あれだけ飲めるんなら、大丈夫かもしれないぞ。コウの奴さ、あの子猫、誕生日プレゼントだと思ってるみたいだ。すぐく喜んでる」

助かるといいな。健一君が咳くように言った。  
うん。わたしは肯いた。

よりにもよって、なんでこんな日なんだろう。コウちゃんの誕生日だなんて最悪だ。あの子猫はいつ死んでしまうかわからない。明日の朝には冷たくなっているかもしれないのだ。だとしたらコウちゃんにとつては最悪の誕生日だ。

④ 細い月の光と、リビングから漏れてくる照明の光が、真新しいお墓を淡く照らしていた。

「なんて言えばいいのかな」

お墓を見つめながら、わたしは尋ねた。

「子猫が死んじゃったら、コウちゃんになんて言えばいいのかな」

「僕もよくわからないよ」

「コウちゃん、生き物が死ぬってこと理解できるかな」

今は無理だと思う。健一君が言った。

「そういうのって理屈じゃないから。なんていうかな、積み重ねていって、自然と身につけるものなんだと思う。そのまんま、全部呑み込むっていうかさ。理屈とかじゃなくて。六歳じゃまだ無理だよ。これから時間をかけて覚えてくしかない。でもさ、そうして身につけたものって強いよな。理屈で覚えたものよりさ。意味もわけも知らないまま呑み込んだもののほうがさ、しつかりわかってるよな。どういうわけかさ」

ああ、その通りだ。

なにもかもが突然やってくる。こちらの都合などおかまいなし。⑤ 通り雨のように、わたしたちをいきなりずぶ濡れにしていく。お父さんたちがいなくなったときも、お母さんが家出したときも、わたしはそういうことを意味もわけも知らないまま呑み込んできた。決して理屈などではなかった。

夜風が吹いて、前髪を揺らしていった。

「健一君にも⑥ そういうことってあるの」

「もちろんあるよ」

「足のこと？」

それはまだ無理なんだ、と健一君は言った。

「今でも足が動くような気がする。朝起きたとき、左足でベッドから下りようとしちゃったりとか、なにか落として拾おうとしたらコケたりとか。昨日も道路でコケたんだ。ほら、歩道って少し高くなってるだろ。十センチくらいだけど。交差点渡るときにちよつとズルしてさ、車が来てなかったから真ん中を横切つて、それで歩

道の高くなつてるところに乗ろうとしたら、足が上がらないんだよ。爪先が引つかかって、頭から突っ込む感じで転んだ。まるでギャグみたいだったよ。近くにいたお姉さんに笑われて、すごく恥ずかしかった。いつまでたっても全然慣れなくて困るよ。リハビリしてれば、そのうち普通に動くようになるらしいからいいんだけどさ」

「だけど、もうサッカーはできないんだよね」

「まあね。でも、そっちは諦めついてる。サッカーしてると、たまにあるから。怪我で引退とかつて。プロ選手が同じような怪我で駄目になつてるのも知ってるしね。そういうのに比べたら、僕なんてちょっと引退が早くなつたくらいだよ。どうせ高校でサッカーはやめちゃうんだし」

言葉は切れたけど、<sup>⑦</sup>思いが切れていなかった。それがわかつたので、わたしは黙っていた。やがて健一君は話の続きを口にした。

「でもさ、変なのな。僕より、周りのほうが諦めついてないんだ。母さんとか、今でもずっと気にしてるし。サッカー部の先生とか、チームメイトとかも」

そういうのが参るよなあ。健一君は繰り返した。ほんと参るよなあ。彼の声は確かに参つていて、なのに少し笑っていた。

心が動き出したのは、そのときだった。

「ごめん、わたし、泣く」

ちゃんと宣言してから、わたしは顔を伏せた。

「しばらく放っておいて」  
「ん」

肯き、健一君は放っておいてくれた。そしてなにも喋らず、肩なんかを抱いたりもせず、ただ横にいてくれた。

涙はどんどん溢れてきた。涙腺が見事に壊れてしまっていた。そうして涙を流すのは、とても気持ちよかつた。どこかにつかえていたものが少しずつ溶けていった。喉が引き攣る苦しさをさえも心地よくて、わたしはだらだらと涙を流し続けた。鼻水だつてぼたぼたこぼれた。こんなふうに泣いたのは、たぶん生まれて初めてだった。お母さんが二番目のお父さんと離婚したときも、お母さんが家出したときも、わたしはまったく泣かなかつた。悲しくさえもなかつた。たくさんの死んだ猫を埋めたときも、やっぱり泣きはしなかつた。なのに、どうして今は泣いているんだろう。誰のための涙なのか。わからないのに、ただ涙は溢れ続けた。

わたしの涙が、鼻水が、真新しい墓の上に落ちていく……。

ごめんね、子猫たち。別にあんたたちのために泣いてるんじゃないんだ。たぶん抱えきれないから、それを涙にしているだけなんだと思う。あんたたちはどれくらい生きられたの。一カ月もなかつたよね。埋める前に洗ってあげればよかつたね。何

色の毛をしてたのかもわからなかったもんね。

そうしてずっと泣いているうちに、涙は自然とおさまった。⑧月の落とす光が、影が少しだけその角度を変えていた。

「家に入ろう、みずき」

健一君が言った。

膝に手を置いて、わたしはゆっくり立ち上がった。

「そうだね」

(橋本紡『地獄の詰まった箱』より)

問1 ー線①「途方に暮れてた」の意味として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 悔しくて泣きたくなる気持ちになること
- イ 悲しきで気持ちが落ち着かなくなる事
- ウ どうすればよいのか分からず困ってしまうこと
- エ たくさんの考えが頭の中でまとまらず悩むこと

問2 囲み枠A S Fを文法上の用法で種類分けをしました。分け方として適当なものの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア A B D・C F・E      イ A C E F・B・D
- ウ A C E・B・D F      エ A E F・B D・C

問3 空欄②に入る語として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 微塵      イ 名残      ウ 気配      エ 影響

問 4

——線③「心もしやがみこんでいるのかもしれない」について、ここでの「わたし」を説明したものとして適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「わたし」は、コウちゃんの特別な日ということもあり、悟られないよう素知らぬ顔で家に戻らなければならぬと思いつつも、様々な感情がせめぎ合い、何も考えられずにいる。

イ 「わたし」は、子猫一匹だけでも助けられることができたことにほっと胸をなでおろしているが、まだ子猫の容態は安心できない状況であるため、未来への不安で動けなくなっている。

ウ 「わたし」は、亡くなっていた猫の悲惨な状況を目の当たりにしたこと、食欲をなくし、夕食を食べられる状況にないが、コウちゃんに心配をかけるわけにはいかないので気持ちが悪く落ち込んでいる。

エ 「わたし」は、健一が居てくれたおかげで気持ちが軽くなったが、子猫の病状は油断できない状況であるので、贈り物だと思いつているコウちゃんにどう説明すれば良いのか困り果てている。

オ 「わたし」は、猫たちを捨てるというひどいことをした奴に強い悲しみと怒りを覚えていたが、健一とコウちゃんの無邪気で楽しそうな様子に気が紛れ、負の感情が和らいでいる。

問 5

——線⑤「通り雨のように、わたしたちをいきなりずぶ濡れにしていく」とありますが、ここに用いられている修辞法として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 体言止め    イ 対句    ウ 擬人法    エ 直喩    オ 暗喩

問 6

——線⑥「そういうこと」とはどのようなことですか。本文中より二十字以内で、解答欄に合うように抜き出しなさい。

問 7

——線⑦「思いが切れていなかった」とありますが、ここでの「思い」とはどのようなものですか。二十字以内で説明しなさい。

問8

——線④「細い月の光と、リビングから漏れてくる照明の光が、真新しいお墓を淡く照らしていた」から、——線⑧「月の落とす光が、影が少しだけその角度を変えていた」への変化が表している事柄として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「わたし」の悲しさが薄れていったこと
- イ 天気がだんだんと悪くなっていったこと
- ウ 庭での時間が少しずつ過ぎていくこと
- エ 子猫の生命力がゆっくと回復していること
- オ 健一のやさしさが「わたし」に伝わったこと

三 次の文章は『宇治拾遺物語』の一節です。読んで、後の問いに答えなさい。

\*能登国のとのくにには、鉄くろがねといふものの、素金すがねといふほどなるを取りて、守かみに取らす者、  
手てを加えていない状態のものを 国司くにじに差し出す

六十人ぞあなる。実房さねふさといふ守の任に、鉄取り六十人①が長ながなりける者の、「\*佐渡さど国くににこそ、金こがねの花咲きたる所はありしか」と、人に言ひけるを、守伝へ聞きて、そ  
あるそうだ 任期中に

国くににこそ、金こがねの花咲きたる所はありしか」と、人に言ひけるを、守伝へ聞きて、そ  
あつた」

の男を、守呼び取りて、物取らせなどして、すかし問ひければ、「佐渡国には、まこと金のはべるなり。さぶらひしところを、見置きてはべるなり」と言へば、「さらいば、行きて、②取りて来なんや」と言へば、「遣つかはさば、Aまかりさぶらはん」と言へば、  
「ございます。ありました所を」 「それ

では  
(私を)遣わすというのなら、参りましよう

ふ。「さらば、舟を出だし立てん」と言ふに、「③人たをば賜たまはりさぶらはじ。ただ小

舟一つと、食物少しとを賜はりさぶらひて、まかり至りて、もしやと、取りて参ら  
いただきまして、  
到着して、  
もしうまくいったら、取って来

せん」と言へば、ただ④これが言ふに任せて、人にも知らせず、小舟一つと、食ふ  
させよう」  
言う通りにして

べき物少しとを、取らせたりければ、⑤それをもて、佐渡国へ渡りにけり。一月ば  
かりありて、うち忘れたるほどに、この男、ふと来て、守に目を見合はせたりけれ

ば、守、⑥心得て、B人づてには取らで、自ら出で会ひたりければ、袖移そでしに、黒くろば  
受け取らないで、  
黒くろず

みたるさいでに包みたる物を、取らせたりければ、守、重げにひきさげて、懐ふところに  
んだ布きれに

ひき入れて、帰り入りにけり。その後、その金取りの男は、Cいづちともなく失せ  
どこへともなく

にけり。Dよろづに尋ねけれども、行方も知らず。金のあるところを問ひ尋ねやす  
問ひ尋ねでもするか

と思ひけるにやとぞ、⑦疑ひける。その金、八千両ばかりありけるとぞ、語り伝  
と思つたのだろうか、

へたる。かかれば、佐渡国には金ありけるよしと、能登国の者ども語りけるとぞ。  
こういうわけで、  
あつたということ

《語句注》

\*能登国……現在の石川県の東北部。

\*佐渡国……現在の新潟県佐渡郡（佐渡島）。

問 1 〓線 A の読み方を現代仮名遣いで書きなさい。

問 2 〓線 B ～ D の読み方を現代仮名遣いで表す時、仮名遣いを変える必要がな  
いもの一つを選び、記号で答えなさい。

問 3 — 線①「が」について、同じ用法のものを含む文を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 君が嘘をついた。

イ われらが母校を誇りに思う。

ウ 私の絵は駄作だが、彼のはすばらしい。

問 4 — 線②「取りて来なんや」、線③「人をば賜はりさぶらはじ」の意味

として適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 取って来てくれないか。

イ 取って来ない方がいい。

ウ 取って来るなんてとんでもない。

エ 人は与えて下さるのでしようか。

オ 人も与えて下さるとありがたいです。

カ 人は与えて下さらなくてもいいです。

問 5 — 線④「これ」、線⑤「それ」の指示内容として適当なものを次から

一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

④ ア 六十人の人々

イ 実房

ウ 男

エ 鉄

⑤ ア 人・小舟・鉄

イ 食物・小舟

ウ 人・食物・小舟

エ 小舟・鉄

問 6 — 線⑥「心得」とありますが、実房はどういうことを「心得」たのです

か。その説明として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「男」が自分に一月ぶりのあいさつをしに来たのだと「心得」た。

イ 「男」が約束に関して自分のことを疑っているのだと「心得」た。

ウ 「男」が忘れかけていた自分のことを思い出したのだと「心得」た。

エ 「男」が約束を果たすために自分に会いに来たのだと「心得」た。

問7 — 線⑦「疑ひける」とありますが、誰が、どういうことを疑ったのですか。

その説明として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「男」が、「男」が実房に金を全部渡していないと実房が詰め寄るのではないかと疑った。

イ 「男」が、実房が「男」に金があるところを聞いてくるのではないかと疑った。

ウ 実房が、自分が金のありかを尋ねてくると「男」が思ったのではないかと疑った。

エ 実房が、「男」が自分に金を全部渡していないことを責められると思ったのではないかと疑った。

問8 『宇治拾遺物語』は鎌倉時代に成立した作品です。同時代に成立した作品とその作者名の組み合わせとして最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 奥の細道—松尾芭蕉

イ 方丈記—清少納言

ウ 徒然草—兼好法師

エ 源氏物語—藤原道長